

V. 特記事項

1. 初年次教育科目「まなぶる▶ときわびとⅠ」「まなぶる▶ときわびとⅡ」

全学共通である基盤教育の「学びの始め科目群」に初年次教育科目として「まなぶる▶ときわびとⅠ」「まなぶる▶ときわびとⅡ」を設置している。この科目は全学科必修で、一貫して全学科混合のチームベースド・ラーニングで授業展開しており、「学び方を学ぶ」「仲間と共に学ぶ」をキーワードに「学びあえる大学生」となることを目指している。

約 30 名の学科混合の教員チームが科目担当者となり「教育から学習へのパラダイムシフト」「事前・事後学修の実質化」「ルーブリック評価」に取組み、「学び合える教員」としての FD 実践の場にもなっている。

令和 3(2020)年 3 月には、本学独自の接続学修である「リエゾン・モデル」の一つとして、入学前教育【1st ステッププログラム～チームビルディングってなに?】をオンラインで実施し、「まなぶる▶ときわびとⅠ」へのスムーズな移行へと役立てた。

2. 全新生対象の市民救命士講習

「いのち」を支える専門職業人の育成をめざし、「地域貢献」を大きな柱とする本学の建学の精神に基づき、平成 27(2015)年度から全新生に対し、正課又は準正課のプログラムとして市民救命士講習を行なっている。令和 2(2020)年度はコロナ禍により実施できなかったが、令和 3(2021)年度は感染症対策を講じたうえで再開した。

この事業は、本学が文部科学省「大学教育推進プログラム (GP)」における「危機対応実践力養成プログラム」として採択された際に始めたもので、組織的に実施するために学内に「FAST 等企画運営ユニット」を組成し推進している。「FAST (民間救急講習団体)」とは神戸市(消防局)が市民救命士養成の推進のために認定する組織であり、講師となるインストラクターは、本学教員が神戸市消防局の講習を受け登録している。令和 3(2021)年現在、30 名の教員がインストラクターとして登録している。なお地域貢献事業としての市民講習は、区内の中学校生徒に対して、毎年実施している。

3. 国際交流及び国際教育としてのネパールとの交流

本学は、平成 9(1997)年にネパール連邦民主共和国公認 NGO の「ハチガンダ福祉協会」と交流覚書を交わした。以来、大学・短期大学部はもとより、系列校である神戸常盤女子高校、同窓会とともに、学園一体となり、22 年間にわたる交換交流を続けている。隔年で双方の学生等を派遣し、医療、衛生分野を基軸に、生活、文化、風俗、全てにわたり著しく異なる地域のフィールドワーク調査や視察を通じた交流・世界体験を目指している。

令和元(2019)年度には、20 周年事業として、相互とも規模を拡大実施した。本学では、神戸市の外郭団体である公益財団法人神戸国際協力交流センターや JICA (国際協力機構)の協力のもと、市内在住のネパール留学生やその関係する他大学の参加を得て記念事業を行った。またネパールでも、政府の重責者の参加を得て記念事業が行われた。

本学には、国際関係の専門学科はないが、学生は、今後いかなる職場においてもグローバルな感性を求められる。また神戸市内にはネパールの留学生が徐々に増えている。本学の長年にわたるネパール交流事業を生かし、市内のネパールコミュニティとの交流につながることを目指している。